



2020年12月18日

各 位

東京都千代田区神田司町二丁目 12 番地 1  
 会 社 名 アース製薬株式会社  
 代 表 者 代表取締役社長 川端克宜  
 (コード番号：4985 東証一部)  
 上席執行役員  
 問合せ先 グループ経営統括本部 三塚 剛  
 本部長  
 (TEL. 03 - 5207 - 7458)

通期業績予想の修正、配当予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、2020年2月13日に公表した2020年12月期（2020年1月1日～2020年12月31日）通期業績予想及び配当予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。また、2020年12月期 第4四半期において特別損失を計上見込みであることから、その概要をお知らせいたします。

記

1. 当期（累計）の連結業績予想数値の修正（2020年1月1日～2020年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	187,000	4,600	5,000	2,550	122.67
今回修正予想 (B)	194,000	10,000	10,200	2,600	125.03
増減額 (B-A)	7,000	5,400	5,200	50	
増減率 (%)	+3.7%	+117.4%	+104.0%	+2.0%	
(ご参考) 前期実績 (2019年12月期)	189,527	3,916	4,326	1,250	61.80

2. 当期（累計）の個別業績予想数値の修正（2020年1月1日～2020年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回修正予想 (B)	123,000	8,800	9,300	100	4.81
増減額 (B-A)	—	—	—	—	
増減率 (%)	—	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2019年12月期)	122,062	3,566	3,862	1,234	61.01

### 修正の理由

新型コロナウイルス感染症の影響による“巣ごもり消費”の拡大に加え、天候に恵まれたことにより、当社グループ収益の中核である虫ケア用品をはじめ、全カテゴリーの売上が拡大しました。これに伴う粗利益の増加、また、返品削減の仕組み化と成果や、販売促進費・広告宣伝費の適切なコントロールなど、ゼロベースで取り組んできた収益構造改革の結果、さらにはコロナ禍での活動抑制による旅費、交際費の減少などにより、当期の売上高、営業利益、経常利益はいずれも当初計画を大幅に上回り、過去最高となる見込みです。

親会社株主に帰属する当期純利益については、当社連結子会社 Earth Corporation Vietnam（以下、ECV 社）に係るのれんの減損損失等を特別損失として約 4,050 百万円計上する見込みですが、当初計画は達成する見込みです。個別の当期純利益については、ECV 社に係る関係会社株式評価損として約 6,570 百万円計上する見込みであることを含んでいます。

## 3. 特別損失の内容

### (1) 計上見込み額

連結決算において、当社の連結子会社であるベトナムの現地法人 ECV 社に係るのれんの減損損失及び連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針 32 項に沿った追加償却として、合わせて約 4,050 百万円を 2020 年 12 月期 第 4 四半期に計上する見込みです。また、個別決算において、関係会社株式評価損として約 6,570 百万円を連結同様のタイミングで計上する見込みです。

※ 為替レート前提：1VND=0.00455 円

※ 特別損失の計上額は、為替レートによって変動します。

### (2) 内容

当社グループは、海外展開を中長期における重要な成長ドライバーとして位置付けており、とりわけ ECV 社は、タイの現地法人 Earth (Thailand) Co.,Ltd.（以下、ETC 社）とともに ASEAN 展開における中核として期待しています。2020 年には当社の連結子会社にあたる海外現地法人がいずれも黒字化を達成する見込みであります。次のフェーズとして海外事業での収益拡大を目指すこのタイミングで、課題への迅速な対応を図るべく、買収時計画等に対する ECV 社の現況について、一歩踏み込んだ検証を行いました。

ベトナムは 9,000 万人を超える人口規模や ASEAN 屈指の高い経済成長率を誇るだけでなく、当社グループがコアとする虫ケア用品の潜在需要の大きさ、ETC 社との連携面での地理的優位性などから、当社グループにとって非常に魅力的な市場です。また、労働力の確保やコスト面に鑑み、新たな生産拠点を構築する上でも有望と考えております。

現 ECV 社は 55,000 軒以上の配荷網とともに、ベトナム国内有数の住居用洗剤ブランド『GIFT』を有するなど、ベトナム国内市場で高いプレゼンスを発揮し、直近 3 ヶ年においても年率 10%を超える売上成長を実現しておりますが、原材料費の高騰や固定費負担の影響を受け、利益率が当初計画を下回っております。また、買収時には想定しえなかった新型コロナウイルス感染症の影響により、ベトナム国内で展開を予定している虫ケア用品の登録・承認、ベトナムの地理的優位性を活かした日本向け製品の生産及び資材の供給が当初計画に対して遅れている状況にあります。

ECV 社の成長を加速していく上で、こうした潜在的なリスクを先送りせず、改めて達成可能な収益計画及びキャッシュフローテストを実施し、取締役会で慎重に議論した結果、今回計上する見込みとなった特別損失について承認いたしました。

#### 4. 配当予想の修正

	年間配当金 (円)		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想		100.00	100.00
今回修正予想		115.00	115.00
当期実績	0.00		
前期実績 (2019年12月期)	0.00	100.00	100.00

#### 修正の理由

配当金につきましては、上述の業績予想等を踏まえ、のれんの減損損失等は手元のキャッシュには影響しないこと、一過性のものであり足元の業績は好調であること、また過去最高の利益を計上する見込みであることに對して株主の皆さまに感謝の意を表するため、1株当たり配当金を当初予想（2020年2月13日公表分）の100円から15円増配の115円にすることといたしました。なお、当社は配当を実施する際 DOE（純資産配当率）4～5%を目安としておりますが、この度の増配に伴い当期の DOE は5.5%となる見込みです。

#### 5. 2021年12月期の業績予想について

2021年の業績について、“新しい生活様式”、“巣ごもり消費”による需要は相当程度残るものと予測しています。また、今期の急激な需要増に対応しきれずに発生した品切れに対しては改善を図りましたので、今期の機会損失に伴うマイナスは解消すると見込んでいます。海外現地法人の個別の業績は引き続き順調に進捗し、新規ビジネスとして期待する MA-T 関連については、初年度より着実な収益貢献を見込んでいます。

仮にこれらの前提とは異なる事業環境となっても、返品削減施策、販売促進費・広告宣伝費のコントロールなど、これまでに進めてきた収益構造改革、これに伴う仕組み化が着実に成果を生み出し、収益を確保できると予測しています。

以上のことを踏まえ、2021年の連結営業利益は本年の見込みと同水準の数値計画をベースに検討しています。

なお、業績計画は現在策定中であり、正式には2021年2月に予定する2020年12月期決算発表の際に、改めて公表いたします。

以上